

V<調査結果のまとめ>

1 学力調査結果について

- (1) 小学校においては、大山町全体の平均正答率は、国と比較して国語、理科はやや高く、算数はやや低く、県と比較して国語、理科はやや高く、算数はほぼ同等である。

国語では、学習指導要領の内容「言葉の特徴や使い方に関する事項」でやや高い正答率を示している。単元をつらぬく言語活動を大切にした授業づくりの成果が出ていると思われる。また、「我が国の言語文化に関する事項」の平均正答率が、国と比較してかなり高い。書写の時間を大切にし、漢字や仮名の大きさ、配列に注意して日頃から書くことの指導を行っている成果が出ていると思われる。

算数では「図形」、「データ活用」の2つの領域において成果が見られた。めあて一まとめ一ふりかえりのあるゴールを明確にした授業づくり、授業のねらいに沿った適用題を用意することや児童の習熟度に応じた適用題を用意するなど、適用題の質と量を意識した取り組みが成果となって表れていると思われる。

また、朝学習や放課後学習の取り組み、家庭学習の取り組み等、学校組織としての取組が児童の学力向上に果たした役割は大きいと思われる。

理科では「エネルギー」、「地球」の2つの領域において成果が見られた。県より5ポイント以上上回った。日々の授業を大切にし、理科における問題解決のステップを踏まえた授業づくり（自然事象への気付き→問題把握→予想・仮説→方法の検討→実験・観察→結果のまとめ→考察→まとめ）を意識しておこなってきた成果であると思われる。また、まとめる際には問題に対する答えになるように、考察したことから理科の用語を使ってまとめていくことが大切である。そのような積み重ねにより理科の力が向上してきたと考える。

- (2) 中学校においては、国と比較して国語、数学は高く、理科はやや高く、県と比較して国語、数学、理科いずれも高い平均正答率になっている。

国語では、6つすべての学習指導要領の内容で、国より高いまたはやや高い正答率となっており、特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「話すこと・聞くこと」は高い。小学校から続いている言語活動を大切にした授業づくりの成果だと考えられる。

数学でも、4つすべての学習指導要領の領域で、国より高いまたはやや高い正答率となっており、特に「図形」、「関数」の2領域は国と比較して高い。単なる計算だけでなく、問題をしっかり理解した上で考え、グループで話し合う活動を通じて思考力・判断力が深まっていると思われる。

理科では、4つの学習指導要領の領域のうち3領域で、国より高いまたはやや高い正答率となっており、特に「粒子を柱とする領域」、「生命を柱とする領域」は国と比較して高い。理科が好きな生徒が多く、自分の予想をもとに観察

や実験の計画を立てたり、その過程を振り返ったりする授業が展開されていることによるものと思われる。

- (3) 学校間の平均正答率の差については、小学校では、国語 17%、算数 14%、理科 19%となり、中学校では、国語 4%、数学 9%、理科 4%の差となっている。

領域別にみると、小学校国語では、「読むこと」の領域で 27.2%、算数の「変化と関係」の領域で 19.5%、理科の「エネルギー」を柱とする領域で 23%、「粒子」を柱とする領域で 22.2%の差となっている。また、中学校国語の「読むこと」の領域で 11.8%、数学の「関数」の領域で 19.8%、理科の「地球を柱とする領域」で 9.2%の差が生じている。

各学校が自校の結果をしっかりと分析し、学級経営や生徒指導を含め、日々の授業改善に取り組むとともに、放課後学習や家庭学習などとの関連を図り、学習内容を定着するための反復徹底を図るサイクルの構築が必要である。

校区の小・中学校が9年間を見通した生徒像を共有し、今回の調査で見えてきた課題を共有し学力向上に取り組むことが重要である。

2 質問紙調査結果について

- (1) 小学校においては、「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う」、「5年生までの授業は自分の考えや思いをもとに作品や作文など新しいものを作り出す活動を行っていたか」、などの項目の肯定的回答割合が国や県より高かった。学級活動における話し合いを含め、自分の考えを整理し、今、自分が努力すべきことを決めたり、それを他の人にどのように伝えればよいか考えたりする指導が丁寧にされていると思われる。一方で、「学校に行くのが楽しい」、「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるか」などの項目は国や県より低かった。昨年同様、安心して過ごすことができる学級づくりの取り組みが必要である。

- (2) 中学校においては、昨年同様、「家で、自分で計画を立てて勉強している」の肯定的な回答割合が国や県よりも高い。「大山町版家庭学習の手引き」の活用や学級指導により、普段の家庭学習の改善が定着しつつあると考えられる。また、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができている」、「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」、「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う」、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う」など、学級やグループでの話し合い活動に関する項目も国や県よりも高くなっている。日常的に自分の意見をしっかりと持ちながら、他の意見と比較し、より向上しようとする取り組

みが定着していると思われる。一方で、「自分にはよいところがあると思うか」は国や県よりやや低く、「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思うか」、「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるか」などの項目は国や県より低かった。自己有用感や大人への信頼感を高める指導が必要であると思われる。

※ 調査結果の処理は学力調査・質問紙調査の結果とも、国がデータ処理したものと大山町が独自にデータ処理したものを使用している。

※ 結果の分析に当たって、国・県と比べて平均正答率等の差に応じて次のように表現している。

- ・差が1%未満の場合、「ほぼ同等」
- ・差が1%以上 5%未満の場合、「やや高い(低い)」「やや多い(少ない)」「やや大きい(小さい)」
- ・差が 5%以上 10%未満の場合、「高い(低い)」「多い(少ない)」「大きい(小さい)」
- ・差が 10%以上の場合、「かなり高い(低い)」「かなり多い(少ない)」「かなり大きい(小さい)」